

きみはどこへ?



さく・え ふじい ふみか



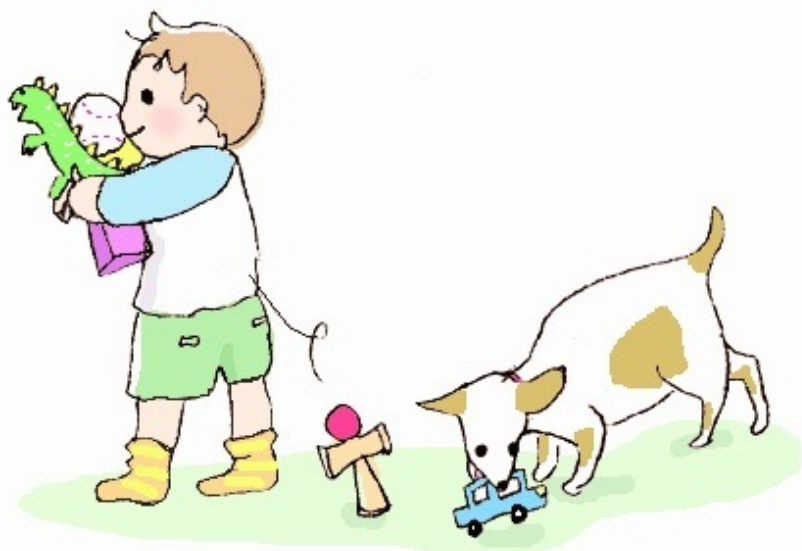
ぼくの なまえは かける
こっちは なかよしの いぬの ラン
よく はしるから ラン なんだって
パパが いうには かけると ランは おなじいみ らしいんだけど
ぼくには えいごが よく わからないや



ランは いつも はしってばかり
にじの はしっこを さがしに いったり
おいかけてくる つきから にげたり
ふってくる ゆきを よけたりもする



それに ひきかえ ぼくは とっても ドジで しっぱいばかり
そんな ぼくを ランは いつも たすけてくれるんだ



ミルクを こぼしちゃった ときには ぜんぶ のんでくれたり
おとしものを ひろってくれたり

ころんだ ときには キズを なめて くれたり
ぼくは ランと いっしょじゃないと なにも できないよ



おかあさんから きいたんだけど
はじめて ぼくが よるになっても かえらなかったひ
ランは いえの なかを はしりまわっては ぼくを さがしてたって

ごめんね そのひは おとまりほいくのひ だったんだ
ぼくも さみしかったよ



あるひ おかあさんから とりかごのそうじを たのまれたんだけど
このこ ぼくに なつかなくて



ついに





はしるのが だいすきな ラン
それっきり もどらなかつた



それから いっかげつがすぎ さんかげつがすぎ いちねんがすぎて
ぼくは しょうがくせいになつた



がっこうの かえりみち ランに にたいぬを みたんだ
くびわのいろ ちゃいろい けのもよう たしかに ランそっくり



となりには ぼくではない やさしそうな おばあさんが いた
ラン いきていたんだね よかった
ほんとうに よかった
そして とても しあわせそう
きっと だいに されているんだね
ちょっと なんだか

さみしいよ



それから なんにちがすぎた あるひ
ぼくは なにかに あたって ちゅうに とんだ



めに とびこんで きたのは ランだった
「やっぱり あなた だったのね」



「さがすのに だいぶ じかんが かかって しまったわね
このまえ あなたを みかけて このこが おいかけて いったのよ
とちゅうで ふみきりが しまっしてしまっして あなたを みうしなっしてしまたわ
わたしの あしが うごかなくなるまえに かいぬしさんを みつけられて よかった」



ランが もどって きた
うれしくて ぼくは はした
ランと いっしょに どこまでも

おばあさん あしが うごかなくなっても
ぼくらが あいに行くよ



おしまい